



Evangelism
Explosion
Japan

一般社団法人 EE JAPAN 季刊誌 (年3回/4月・8月・12月発行)

行きて伝えよ

2025

12

Vol.14

信徒伝道者の発掘・育成・増殖のために

いと高き所に栄光、地には平和

～救い主の誕生と私の証し～

姫井雅夫 牧師

1941年中国・上海生まれ、北九州育ち。立教大学、イムヌエル聖宣神学院卒業。68年から山口県内で3つの教会を開拓。71年日本基督教団正教師。ラジオ牧師などの活動を経て、88年同教団赤坂教会牧師に就任。総動員伝道代表、伝道団体連絡協議会前会長。EEJapan評議員。

2025年も終わりに近づきました。皆さんにとって、この一年はどのような日々だったのでしょうか。穏やかで楽しい一年だった、と振り返る方もおられるでしょう。あるいは、慌ただしく過ぎ、忙しさに追われた一年だった方もおられるかもしれません。



高齢化の時代を迎え、私たちの周りでも、ご高齢の方々が天に召されることが多くなりました。皆さんの身近にも、そのような方々がおられたかもしれません。

やがて12月。年の瀬の中で迎えるのがクリスマスです。クリスマスは「死」を思い起こす時ではなく、「誕生」を祝う時です。

■ 救い主イエスの誕生

ルカの福音書2章には、イエスの誕生の出来事が記されています。

私たちは歴史を区別するために年号を用いますが、その基準となったのがイエスの誕生です。誕生以前をBC (Before Christ)、誕生後をAD (Anno Domini / 主の年) と呼びます。今はAD2025年、つまりイエス・キリストの誕生を基点とした2025番目の年に当たります。クリスマスは、人類の救い主イエスの誕生を祝う日です。イエスは罪の性質を持つ人間だけから生ま

れたのでは、救い主になることはできませんでした。神の御子でありながら、同時に人として誕生されねばなりませんでした。そのため、マリヤは「いいなづけの身」でありながら、聖霊によって身ごもりました(ルカの福音書2章5節)。また、救い主はダビデの家系から出なければなりません。そのためヨセフとマリヤは、ガリラヤのナザレから、ダビデの町ベツレヘムへ上ることになりました(ルカの福音書2章4節)。そこでマリヤは男子を出産します。救い主イエスの誕生です。イエスの誕生とともに、天の軍勢が現れ、神を賛美しました。

「いと高き所で、栄光が神にあるように。」

「地の上で、平和が御心にかなう人々にあるように。」

(ルカの福音書2章14節)

■ 私自身の誕生と戦争の記憶

イエスの誕生がクリスマスですが、私がこの世に生まれたのは1941年5月、父の会社の都合で中国・上海でした。やがて第二次世界大戦が始まり、父は日本軍として戦場に派遣され、私たち家族は日本へ帰国しました。後になって知ったのですが、父が所属した部隊は全員戦死したそうです。父は病気で入院していたため命が守られたのでした。

■ 幼少期から大学時代、そして信仰の出発点へ

幼少期はカトリック系の幼稚園、小学生ではバプテスト教会の教会学校に通い、クリスマス劇にも参加し



ました。しかし中学・高校の間は教会から離れていました。

大学に入り、将来を考えて経済学部に進み、経営管理クラブにも所属しました。1年生で副委員長になり、弁論大会にも出場しました。ある時、友人がこう言いました。

「姫井君、これからは英語が話せないと困るぞ。タダで英語を教えてくれる所があるから行こう。」

連れて行かれたのは宣教師による English Bible Class でした。半年ほど通ったころ、宣教師が尋ねました。

「私の話、分かりますか？」

私は、習ったことを覚えている範囲で説明しました。

“人は罪を犯しており、死後は裁きを受け永遠の滅びに至る。”

“しかしイエスが十字架で罪の代価を払ってくださったので、救い主と信じれば赦され、天国に行ける。”

すると宣教師はこう言いました。

「よく分かっていますね。では今、罪を悔い改め、イエスを救い主と信じましょう。」

私は答えました。

「悔い改めなければならないほど悪いことはしていません。」

これで話は終わると思いました。しかし宣教師は黙ったまま、目を閉じ続けました。その沈黙の中で、私も黙っていました。どれほど時間が経ったのでしょうか。聖霊様の導きでしょうか、私はたどたどしい言葉で祈り始めました。

「主よ、イエスを救い主と信じます。心をきれいにしてください。」

顔を上げると、宣教師は涙を流していました。この出来事をきっかけに、礼拝に行くよう勧められ、有楽町のビルにあった教会に通うようになりました。

■ クリスマス劇の思い出

年末、青年会でクリスマス劇をすることになりました。私は「遅れてやって来る博士」の役でした。ほかの

博士たちはベツレヘムへ向けて出発しますが、私は遅れたため合流できません。どちらの方向へ行けばよいのか迷い続け、5年、10年……と時間が過ぎてもイエスに会えません。

「この町にはいませんよ、山の向こうです」

「川の向こうで説いておられるらしい」

「捕らえられて十字架にはりつけになった、と聞きました」

長い年月をかけ、ようやくゴルゴダの丘にたどり着いた老博士は、杖を突きながらイエスの前にたどり着きます。そして叫びます。

「イエス様！！」

そのまま倒れる——これが私の演じた場面でした。舞台で杖とともに倒れた音が大きかったので、会衆の皆さんは本当に倒れたと思い、席を立てて覗きに來られました。

■ 復活の真理と救いの招き

イエスは十字架の死の後、墓に葬られました。しかしマリヤたちが墓を訪れたとき、イエスはそこにはおらず、よみがえられていました（マタイの福音書28章5節、マルコの福音書16章6節、ルカの福音書24章5節 参照）。

復活とは物語ではなく、真理です。皆さんも、ルカの福音書を静かに読み直してみてください。私が演じた劇は劇にすぎません。しかし聖書の記事は真実です。

神は人類の罪を赦すために救い主イエスを遣わし、十字架によって救いの道を開かれました。

「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」

（ローマ人への手紙10章13節）

■ 最後に——今日こそ、救いの日です

今日、いかがでしょうか。あなたも救い主イエスの名を呼び求めてみませんか。今日は恵みの日、救いの日です（コリント人への手紙第二6章2節）。主はあなたを招いておられます。



証し Testimony



～卒業生・在校生からの生きた証しをご紹介します～

角田 はじめ姉 (神戸バイブルフェローシップ)

EEを受講する前の私は、積極的に神様のことをお伝えしていなかったように思います。10代のころは神様のことを語るのが大好きだったのに、いつの間にか仕事や目の前の課題に追われ、気づけば神様が一番ではなく、福音を伝えることがむずかしく感じられるようになっていました。

EEを受講しようと決めたとき、「少しでも10代の頃のように、神様を伝える情熱を取り戻したい」という思いがありました。実際にクラスが始まると、毎週の学びがとても楽しく、私の霊が喜びで満たされるのを感じました。「もっと知りたい！もっと神様との関係を深めたい！」という思いが湧き上がり、次の授業が待ち遠しくてたまりませんでした。同じ時に何人かの方々とオンラインで学べたことも、大きな励みになりました。自分自身の救いの証しを整理する中で、神様がこれまでしてくださった御業の一つひとつ思い起こすことができました。福音をゆっくり味わい、みことばを覚えながら進む学びは、暗記が得意ではない私にとって簡単ではありませんでしたが、繰り返すうちに次第に自分自身のものとなっていきました。その頃から、福音を人に伝えることへの不安が消え、「どこからでも語り出せる」と思えるようになっていきました。

何よりも大きかったのは、私自身の内側が変えられていったことです。実際にOJTで福音をお伝えすると、事前に自分の頭で描いていたシミュレーション通りにはいきません。思いがけない瞬間に心を開く方がおられたり、逆にそうでなかつ

たり……。その中で私は、「福音に応答するのは人の思いや計画ではなく、神様のタイミングであり、神様の御業なのだ」と深く感じました。「私が」ではなく、「神が」なされるのだということ、身をもって教えられました。自分の弱さや罪を知ったうえで、イエス様が十字架で私の身代わりとなって死んでくださり、よみがえり、天で私のための場所を備えていてくださる……。そのような深い愛をもつ神様が、あえて私を用い、福音を語らせてくださる。その事実そのものに、神様の愛を強く感じています。

EEの学びとOJTを終えた今の私は、受講前とはまったく違います。神様を伝えることを意識するようになり、人々に証しすることにもチャレンジするようになりました。また人と祈る機会も増え、忙しさに流されるのではなく、私を変えてくださった神様とともに歩む喜びを日々味わっています。神様をお伝えする働きと、主からいただいている恵みを心から感謝するようになりました。

EEを受講される方々が、どなたであっても、どのような職業・状況・環境であっても、この学びの中で神様の愛をさらに深く味わい、私たちに与えられている特別な使命——福音を伝えるという働き——を喜びをもって生きられることを願っています。

神様とともに歩む人生をより深く味わうことができるEEの学びを、私は心からおすすめいたします。

石阪 勝美姉 (神戸バイブルフェローシップ)

お友達がEEの学びを紹介してくれたとき、正直なところ、それが「個人伝道の訓練プログラム」であることをきちんと理解していませんでした。それ以上に、私は「伝道」という言葉にアレルギーがあり、自分がこのような学びに参加するなど想像もしていませんでした。私にとって「伝道」とは、人の自由意志を大切にせず、とにかく神様のことを一方的に話し、相手にプレッシャーを与え、人間関係を壊してしまう——そんなマイナスのイメージだったからです。

しかし学びが進む中で、そのイメージは過去の嫌な経験を利用して、サタンが私を惑わせていたのだと気づきました。実際の「伝道」は、何か身構えるようなものではなく、生活のただ中にあるものでした。今すでに与えられている人間関係を大切に、神様が人に自由意志を与えてくださったように、私たちも相手の自由意志を尊重する。神の愛を土台に、忍耐をもって向き合う。「伝えなければならない」というプレッシャーを背負うのではなく、「YESと言ってもらえたら成功」という考え方でもない。聖霊とともに歩み、与えられた力と知恵を用いて、自然体で、けれども備えはしっかりとしておくことが大切なのだ学びました。

講義を受けるごとに不安は消え、代わりにワクワクした思いが湧いてきました。「これって、イエス様が地上でしておられたことだ。周りの人に愛を示し、関係を築きながら、自分らしくイエス様の証人として歩むことなんだ。」この気づきが、私の心を大きく変えました。

OJTの頃には、「あの人も伝えたい！この人も伝えたい！」と期待でいっぱいになっている自分がいました。OJT

(実地訓練)があつて、本当に良かったと思います。もしOJTがなければ、学びは頭の中で終わり、実際の行動につながらないまま時間が過ぎていたでしょう。訓練とはいえ、5回も実際に自分の口で証しをし、福音を語り、相手が耳を傾けてくれたことで、その方々との関係が前よりも親しく感じられ、一歩深まったようで嬉しくなりました。種を蒔くことができた喜びと、これから神様ご自身がその方をどのように導かれるのか、とても楽しみになりました。また、福音を伝えるために関係を築くのではなく、神様が私たちにくださった想像を超えるほどの一方的な恵みと愛——そのことをEEの13週で改めて深く学びました。日々聖霊と親しく歩む中で、神様の愛に突き動かされ、イエス様の目で人を見るようになりました。

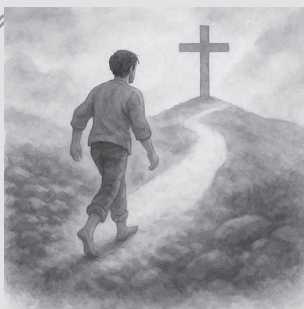
「この人の負債も完済されたんだ！」「この人の負債も……！」その真理をただ伝え、無償のプレゼントとして受け取れるよう、助けになりたいと思うようになりました。この実践を伴うEEの訓練を受けたことで、私自身の福音理解がさらに深まりました。「伝道はむずかしい」「怖い」という考えはどこかに吹き飛ばし、心にはただ「神様ってすごい！！！」という賛美だけが溢れています。また、EEの学びを私がシェアしていた親しい友人が、それを聞いて実際に別の友達に福音を伝え、その方が「永遠のいのち」を受け取る祈りに導かれました。ばんざーい！ハレルヤ！

このように、私はEEで教えていただいたこと、学び、訓練のすべてを、これからも周りの人々に紹介していきたいと思っています。

コラム Column

EE国際本部総裁

John Sorensen



イエス様と共に歩む人生の第一歩目とは「信頼」です。何よりも最初に求められるのは、私たちが救いに至らしめる「真の信仰」です。イエス様とは、ご自身が約束されたことを全て成就することのお出来になる方であると信頼するのです。その上で、私たちは自身の救いの根拠を「諸所に分散する」のではなく、イエス様にのみ置くのです。これが「イエス様のみを信じる」、或いは「イエス様のみを信頼」ということの意味です。

福音を伝える際も同じです。イエス様とは「約束通りに」働かれるお方であると信頼するのです。実を結ぼうと思うなら、あなたはこの福音は、人を「完全に救う」（ヘブル7:25）ことができ、神は信じる者から決

して「離れず、見捨てない」（ヘブル13:5）お方であると信じて、その一步を踏み出さねばなりません。

その一步の準備のために、あなたは御言葉に親しみ、福音の分かち方を学び、実際に語る練習をしなければなりません。あなたは、EE Japanの個人伝道訓練を、年に2度（3月と9月）オンラインで受講することができます。この訓練を通して、あなたも自信を持って、そして効果的に福音を宣べ伝えることが出来るようになります。

その一步によって、あなたは、ご自分がどれほど神に用いられることが可能であったかを知ることになるでしょう。その一步とは、友人をコーヒーに誘って「大切な話がある」と切り出すことかもしれません。或いは、コインランドリーで見知らぬ人に、「ちょっとお伺いしてもいいですか」と声をかけることかもしれません。そうです。どのような一步でもかまいません。「信頼」を働かせて踏み出すのです。主はいつもあなたのそばにおられ、あなたが人々を主のもとへ導くその歩みを励ましておられます。あなたの信仰の歩みに、主の豊かな祝福がありますように。



EEのクラスから



EEJapanの信仰声明文

EE Japan 代表 **山中 知義**

本声明文は、広義の福音主義宣言であり、EEが提案する福音提示の内容と一致するものです。その声明文は、EEの働きの前進のために大変重要であると認識されています。本声明文は、教理の統一を目的したものではなく、むしろ細部においては異なった見解を持つ福音主義者たちが、単純な福音真理において、そして福音拡大の目的において一致団結することを促すためのものです。

- ◆ 聖書は、靈感を受けた、唯一朽ちることのない、権威ある神のことばです。
- ◆ 神は、父、子、聖霊、という三人格において永遠に存在する、唯一の神です。
- ◆ 我らの主イエス・キリストは、神であり、人であり、お一人なる方です。イエスは処女より生まれ、罪なき人生を生き、奇跡を行い、人類の罪の贖いとして血を流し、十字架で死なれました。イエスは、死から肉体を持って蘇り、天において父なる神様の右の座に着かれ、やがて力と栄光を帯びて再臨されるお方です。

- ◆ 失われた罪人である人間が、救われるためには、聖霊による生まれ変わりが絶対に必要です。
- ◆ 永遠のいのちは、信仰によって受けることができます。すなわち救いを得るためには、イエス・キリストにのみ救いの根拠と信頼を置かなければなりません。
- ◆ 聖霊は、すべての真実な信仰者に宿り、敬虔な生活を送れるように力を与えて下さいます。
- ◆ 救われた者も、失われた者も、死から蘇ります。救われた者は、いのちへの蘇りを経験し、失われた者は、永遠の裁きへ向かう蘇りを経験します。
- ◆ すべて真実な信仰者には、我らの主イエス・キリストにあって霊的一致があります。
- ◆ 地域教会とは、福音伝道のために、神がこの世に建てたもうた主要活動拠点です。
- ◆ すべての真実な信仰者には、「すべての造られた者に福音をのべ伝えなさい」「全世界に出て行き弟子を作りなさい」というキリストの使命が与えられています。
- ◆ 個人伝道の経験が浅い者は、経験の豊かな者が導く個人伝道の現場に、実際に参加するという「実地訓練」を通して最も効果的に整えられます。



Essay
エッセイ

「信仰は聞くことから始まる」

EE Japan 代表 山中 知義

「信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。」

(ローマ人への手紙 10章17節)

聖書は、信仰の出発点が「聞くこと」であると語っています。しかし、もし私たちの福音との関係が「聞く」に留まり続けるなら、信仰はいつまでも出発の域を越えません。

信仰は「からし種」のように、小さな始まりからは想像もできないほど大きく成長するものです。では、その信仰が「種」から「大木」へと成長するために必要なことは何でしょうか。それは、私たちの福音との関係を「聞く」(受動的関係)から「伝える」(能動的関係)へと前進させることです。

米国の研究者たち(NTL Institute)が発表した「ラーニングピラミッド」(図)は、学習方法と定着率の関係を示したものです。そこでは、聞く、読む、といった「受動学習(パッシブ・ラーニング)」の定着率は、わずか5%程度しかないと報告されています。つまり、それだけでは、実際には深い理解に至りにくいということです。しかし、学びを「能動学習(アクティブ・ラーニング)」へと前進させるならば、結果は劇的に変わります。その「能動学習」の最たる形が、「他の人に教える・伝える」という行為です。誰かにその情報を教える・伝えるという前提で学ぶと、人の学習能力(情報理解、情報処理、記憶)は90%にまで跳ね上がります。

なぜそうなるのか。それは、人とは理解を経なければ、その情報を伝えることが出来ないからです。また伝える以上は、相手に理解して欲しいと願うのが人間の持つ性質だからです。理解されないことは不快なのです。だから、教える・伝える前提で学ぶ人は、その情報を理解するだけでなく、それを自分の中で整理します。出来る限り分かり易く伝えるためです。だから言葉をよく選び、創意工夫をこらし、相手に理解プロセスを確認しながら説明します。つまり脳のすべてを使う働きが起こるのです。

クリスチャンの「福音理解」は、信仰歴に必ずしも比例しません。信仰歴は浅くとも、人生を福音によって大きく変えられ、興奮冷め止まぬという人がいれば、「福音を

何十年も、何度も聞いている」「福音書を何度も読んでいる」、それなのに自分が果たして「新生」(ボーンアゲイン)しているのか、本当に救われているのか分からないというクリスチャンも珍しくありません。同じ福音と向き合いながら、このような大きな差が生じるのはなぜでしょう。それは福音が「奥義」(ミステリオン)だからです。福音メッセージが難しいという意味ではありません。そのメッセージは極めて単純です。子供も理解できます。でもそれは、信仰の出発域に留まらず、「この先へ進みたい」、「もっと神を知りたい」「私の人生はこのままであるはずがない!もっと神に用いて頂きたい!」と願い求めない限り、「知り得ない構造」になっているのです。それが奥義という意味です。

「すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すところなく伝えるためです。この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。」

(コロサイ人への手紙1章26～27節)

もしあなたが、福音との関係において「聞く・読む」という出発域から前進していないならば、福音の奥義は、まだ半分も解き明かされていないでしょう。結果、救いの確信も、感動も中途半端なままかもしれません。しかしもし、あなたの福音との関係を、「受動」から「能動」へと前進させるなら、即ち、福音をいよいよ勇気を出して自らの口で、他の誰かに伝えるという方向へと前進させるならば、あなたのクリスチャンライフは、新しいチャプターへと引き上げられることになるでしょう。実際にそのように福音のインパクトが、5%が90%になるとはどのような体験でしょう。

一人の体験者の証を聞いてみてください。

<https://youtu.be/0TpqpiraYQQ?si=wY4ZxLr5dIHjrmIW>

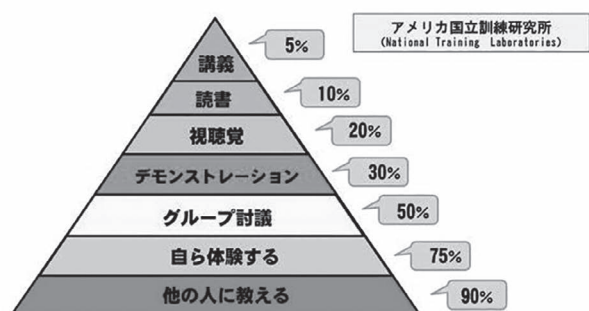


もし牧師が、教会がそのような「信徒伝道者」を育てることに献身するならば、その教会は、使徒が家族や友人を救いに導く教会となるでしょう。そして地域に向かって力強く福音を、信徒たちが発信する教会となることでしょう。

EEJapanは、この「福音との能動的関係」へとクリスチャンをお導きするために存在します。半世紀以上に亘って、世界中の福音主義的牧者・伝道者・神学者たちが研究とフィールドテストを重ねて作り上げた極めて効果的な個人伝道訓練ツールです。

今回の EE Japan 13週クリニック(オンライン)は、2026年3月2日～6月2日を予定しています。毎週月曜日10:00～12:00です。

ぜひ、この機会に受講をご検討ください。



Information インフォメーション

①【重要】生徒募集中！

2026 年 春期オンライン 13週クリニック

(2026年3月2日開講予定)

3月2日はオリエンテーションです。どなたでもご参加いただけます。ぜひ、周りの方にもお声がけください。

②証しブックレット

『我限りなき愛をもて』発売中！

EE Japan代表・山中知義の証しブックレット

『我限りなき愛をもて

— 救いの日からEEとの出会いまで』が

発売中です。

定価：300円（税込）

③毎週水曜日 20:30～ EEの祈り会【Zoom】

EE Japan理事長・高橋裕子師を中心に、Zoomで祈り会が開かれています。どなたでもご参加いただけます。ぜひ一緒に祈りましょう。

《Zoomミーティング情報》

ID：883 9235 5160

パスコード：771672



● 報告

1. 2025 年第1回理事会並びに評議委員会開催

去る10月6,7日に京都にてEE Japan 理事会が開催されました。コロナ禍を経て約5年ぶりに対面での理事会が開催され、今後のEE ミニストーリーについて活発な議論と、熱い祈りが積み重ねられました。

また、6日にはZoomにて、第1回評議委員会が開催され、各方面で経験豊かな先生方のアドバイスやご意見を賜うことができました。感謝申し上げます！



2. EE インターナショナル代表 ジョン・ソレンセン牧師来日

去る9月21日（日）、EE インターナショナル代表の ジョン・ソレンセン牧師が来日し、京都インターナショナルチャーチにて力強いメッセージを取り次いでくださいました。

興奮と感動に満ちたメッセージはこちらから視聴できます。



クリスマス特別献金のお願い

EE Japan の活動は皆様の献金で支えられています。特にOJT コーチは訓練を卒業なさった方が有志で引き受けてくださっています。彼らの活動は全くのボランティアであり、交通費も自らが負担し伝道者育成に献身してくださっています。

OJT コーチ制度をお支えください。未だ、一度も福音を聞いたことのない方へ福音を届けるため、信徒伝道者育成にコミットするEEの働きをどうぞお支えください。

銀行振込とクレジットでの献金が可能です。お捧げくださる方の上に、神様の豊かな祝福がありますように！

京都銀行 (0158)

支店：帷子ノ辻（かたびらのつじ）151

口座番号：3699909

口座名義：

一般社団法人 エバングリズムエクスポージョンジャパン

クレジットカードでも

献金できるようになりました！

どうぞ、ご活用ください。



発行：EE Japan

代表者：山中知義 編集責任者：山中智子（編集長）

発行日：2025年12月6日（冬号）／発行頻度：季刊（春号・夏号・冬号）

〈編集・発行所〉EE Japan 事務局

〒616-8163 京都市右京区太秦西峰岡町27-10 TEL.090-2038-1634

E-mail：info@eejapan.org／ホームページ：www.eejapan.com

印刷・製本・レイアウト：（宗）ニューライフ・ミニストリーズ 新生宣教団

〈献金振込先〉

● 銀行名：京都銀行 帷子ノ辻（カタビラノツジ）支店

口座番号：普通 3699909

名義：一般社団法人エバングリズムエクスポージョンジャパン

● 銀行名：ゆうちょ銀行

振替口座 00960-8-195432

名義：日本爆発伝道協会

（同封の用紙をお使いください。手数料は無料です）